

## 選択外国語履修方法について（大学のみ）

選択外国語の履修方法・卒業要件となる単位数は所属学科によって異なりますが（詳細は「1.選択外国語の履修方法」を参照）、卒業には各学科で定められた選択外国語の単位習得が要件となります。事前に各外国語のクラス調整を行いますので、回答フォーム（入学手続要項掲載の『北星で学ぶにあたっての入学前調査』）により回答してください。

皆さんの希望をできるかぎり尊重し、調整のうえ履修する外国語を決定しますので、必ず回答してください。各外国語の内容については「2.各外国語の教育目標と授業の進め方」を参考にしてください。

決定した選択外国語とクラス（英語は、習熟度を判定するプレースメントテストによりクラスを決定）については、オリエンテーション期間中にお知らせします。

### 【回答上の注意】

- ① 必ず問1から問3まで回答してください。
- ② 英文学科は英語を選択することはできません。
- ③ 経済学科は必修である英語を除く4つの外国語の中から選択してください。
- ④ 社会福祉学部心理学科は英語が1年次必修のため回答不要です。（2年次の外国語履修については入学後に説明します）。
- ⑤ 提出期限までに回答がない場合は大学が指定した外国語になり、卒業まで変更できません。

## 1. 選択外国語の履修方法

### (1) 文学部 英文学科、心理・応用コミュニケーション学科 経済学部 経営情報学科、経済法学科 社会福祉学部 社会福祉学科

本学の文学部英文学科では、大学共通科目の外国語は、下図の「履修方法①」のように履修します。ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか一つを、1年次でI及びIIの4単位（選択必修）履修し、2年次では同じ外国語を継続してIIIとIVの4単位（選択必修）履修します。したがって、外国語の卒業要件は合計8単位となります。

※文学部英文学科入学生は、英語は選択できません。

本学の文学部心理・応用コミュニケーション学科、経済学部経営情報学科・経済法学科及び社会福祉学部社会福祉学科では、大学共通科目の外国語は、下図の「履修方法①」のように履修します。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか一つを、1年次でI及びIIの4単位（選択必修）履修し、2年次では同じ外国語を継続してIIIとIVの4単位（選択必修）履修します。したがって、外国語の卒業要件は合計8単位となります。

なお、決定した外国語は卒業まで変更することはできません。

※将来、文学部英文学科に転学部転学科するには英語を選択外国語として修得している必要があります。

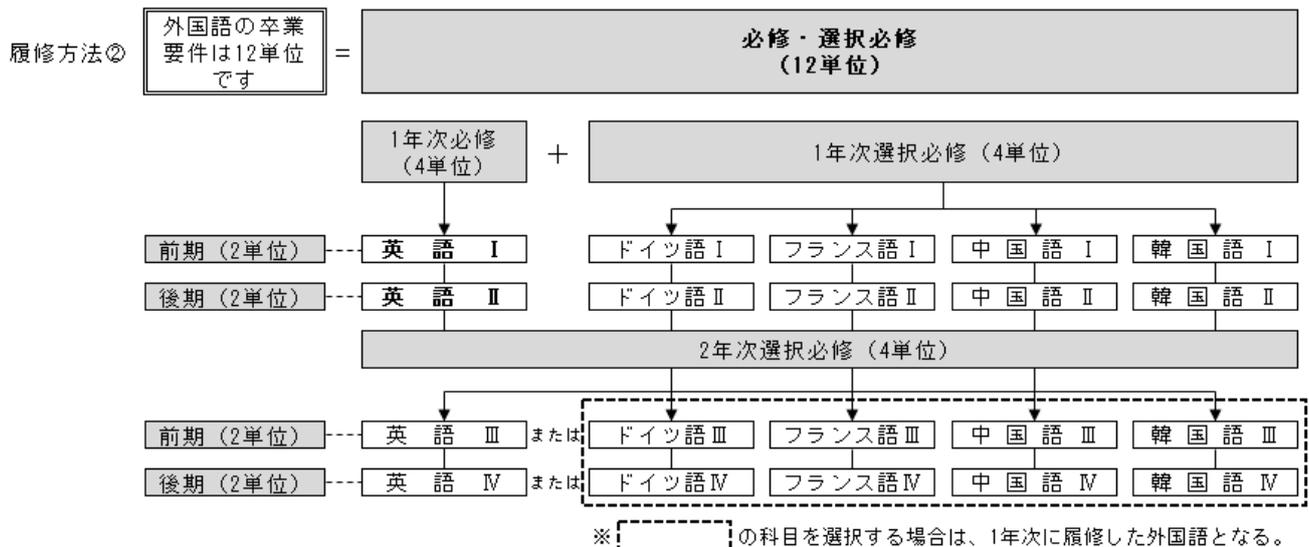


## (2) 経済学部 経済学科

本学の経済学部経済学科では、大学共通科目の外国語は「履修方法②」のように履修します。

1年次で必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ（4単位）」を履修（全員）するほか、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の中からいずれか一つの外国語Ⅰ・Ⅱ（4単位）」を履修することになります。したがって、1年次では外国語を8単位履修します。

2年次では「英語Ⅲ・Ⅳ（4単位）」または、1年次で履修した「ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語」のⅢ・Ⅳ（4単位）のいずれかを履修することになります。したがって、経済学部経済学科では外国語の卒業要件は合計12単位となります。



## (3) 社会福祉学部 福祉心理学科

本学の社会福祉学部 福祉心理学科では、大学共通科目の外国語は、1年次で必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ（4単位）」を履修（全員）します。2年次の履修と卒業要件については、入学後に説明します。



**検定試験による外国語科目の単位認定制度**があります。この制度は、対象となる検定試験で一定の基準に達した者には、その外国語科目についてレベルに合わせた単位を授与するというものです。オリエンテーション時に配布される「履修ガイド」で詳細を確認してください。ただし、選択外国語を決定する際は検定試験による資格は考慮されません。

## 2. 各外国語の教育目標と授業の進め方

### 「英語 I～IV」

英語 I・II では、様々な分野の教材内容をもとにして、英語コミュニケーションのスキルを身につけることが目標です。授業は週2回行われ、原則として週の授業のうちの一つはネイティブスピーカの教員が担当となります。講義形式ではなく、スピーキング練習をはじめ、学生がアクティブに参加する学習が重視されます。リーディング、ライティング活動もありますが、いずれにしるコミュニケーションに役立つ能力を総合的に向上させることを目標にしています。また、授業内容以外にも、リスニング能力や語彙力の向上など自発的な学習が求められます。

英語 III・IV では、英語 I・II で培った英語コミュニケーション能力をもとに、内容を理解するためのノートテイキングの仕方の学習をする他、時事問題や特定の学問分野で扱われる事象についてのディスカッション、自らテーマを決めたプレゼンテーションなど学生中心の発信活動がより重視されます。また、自分の専攻である各学科、学科の教育内容と結びつく英語力を身につけることも目標となります。例えば心理・応用コミュニケーション学科の学生は心理学やコミュニケーション関連のトピック、経済学部はマーケティングについて、社会福祉学部では幸福度の高い人生について考えるなど、学部学科の学びに関連したトピックを取り上げ、英語での思考力や自分の意見をまとめて発信する能力を磨きます。

### 「ドイツ語 I～IV」

コミュニケーション能力の養成を目標とした授業を行います。身近なテーマについてドイツ（語圏）の事情を学びながら、基本的なドイツ語の表現と、「話す・聞く・読む・書く」の四技能を習得していきます。また、日本の事情を簡単なドイツ語で表現することも学びます。

授業は、北星学園大学の学生のために開発した教科書を使って、日本人とドイツ人がそれぞれ週1回ずつ担当します。学生同士がペアになって対話練習したり、クラスで互いにインタビューしたり、グループで課題をするなど、学生のドイツ語を使った活動が中心です。積極的に活動に参加し、分からないことはいつでも質問してください。

2年間学習すると、日本の独検（3級）やオーストリアのドイツ語検定（初級）に合格できる程度のドイツ語能力がつけます。

### 「フランス語 I～IV」

授業は、北星学園大学の学生を対象として作成された教科書を用いて、原則日本人教員とフランス語ネイティブ教員がペアとなり、それぞれ週1回ずつ行われます。いずれも実際のコミュニケーションに役立つ外国語の運用能力の習得を目指すと同時にフランス語を通して世界観を広げることも目標の一つです。教科書は日常生活の様々な場面を中心に、基本的な表現を身につけ、学生同士が対話したり、発言したりできるよう、積極的な取り組みに応じて楽しみが増すよう工夫されています。「話す」・「聞く」技能を確かなものにするために、「書く」・「読む」技能も同時に習得できるようワークブックも用意されています。未知の領域で、それぞれの知的能力の開発を目指してみましょ。

### 「中国語 I～IV」

中国語のコミュニケーション能力の養成が目標です。身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や重要な文型、また基本的な文法を学びます。授業は、北星学園大学の学生のために開発したテキストを使い、学生同士による対話練習を中心とし、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いています。また、聞き取り、読みもの、作文などの練習を通して「聞く、読む、書く」訓練を行い、四技能の習得を目指します。中国の日常文化を知り、日本と中国の違いや日本語と中国語の違いを理解することも、外国語学習の大切な要素となっています。本学は中国の大連外国語大学、台湾の東海大学と交換留学提携を結んでいるので、派遣留学や中国・台湾からの留学生との交流のチャンスもあります。

## 「韓国語 I ～IV」

隣国の一つである韓国の言葉を学ぶ目的は、その文化への理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことです。そのために、聞く、話す、読む、書くの四技能の基礎確立を到達目標とします。学習プログラムは学生のペースに合わせて一つ一つ段階を踏んで進めていくようになっています。具体的には、文字と発音を学び、次に短い会話文を学習します。こうして徐々に、韓国の人々とのコミュニケーションの道具として使える韓国語へと発展させていきます。本学は韓国カトリック大学と国際交流の姉妹校提携を結んでいるので、韓国への派遣留学のチャンスもあります。相手の国の言葉を勉強することで、交流を深めるきっかけとなるよう願っています。